半田市立横川小学校　校長だより【第２６号】令和３年１月

横川っ子だより

心のスイッチを　ＯＮ！

あけましておめでとうございます。今年は、丑年です。

牛は、古くから酪農や農業で人間を助けてくれた大切な動物でした。大変な農作業を最後まで手伝ってくれる働きぶりから、丑年は「我慢（耐える）」、「これから発展する前触れ（芽が出る）」というような年になるといわれています。

ポストコロナ社会を迎えるにあたり、今年は「耐えて芽を出す年」になりそうです。

新しい１年が皆さんにとってすばらしい年になりますように、東井義雄さんの「心のスイッチ」という詩を紹介します。

心のスイッチ

人間の目はふしぎな目
　見ようという心がなかったら　見ていても見えない
人間の耳はふしぎな耳
　聞こうという心がなかったら　聞いていても聞こえない
頭もそうだ
　はじめからよい頭　わるい頭の区別があるのではないようだ
「よし、やるぞ！」と　心のスイッチが入ると
　頭もすばらしいはたらきをしはじめる
心のスイッチが人間をつまらなくもし　すばらしくもしていく
　電灯のスイッチが家の中を明るくし　暗くもするように

心のスイッチは、誰もがもっています。心のスイッチを入れるのは誰でしょう。他の人が助けてくれるかもしれないし、何かのきっかけで入ることがあるかもしれません。でも、スイッチを入れるのはやっぱり自分自身です。

では、どうやったらスイッチを入れることができるのでしょうか。まず、自分なりのはっきりとした目標をもつこと、そして、小さな一歩を踏み出すことではないかと思います。スイッチを入れなくては、皆さんのもつすばらしい可能性も単なる可能性で終わってしまいます。心のスイッチをＯＮにするのは、他の誰でもなく、皆さん自身です。